

『伝道について語る会』報告

埼玉地区壮年部委員会市川浩

去る 11 月 22 日(土)大宮教会にて『伝道について語る会』が開かれました。

その報告を致します。

I. 概要

日 時:2025 年 11 月 22 日 10:00~14:15

会場:日本基督教団大宮教会

テーマ:「あらためて、伝道について考えてみよう」

プログラム:

- ① 開会礼拝 10:00~10:30 (小礼拝堂)
- ② 発題 10:40~12:15 (地下ホール)
- ③ 分団 12:50~14:00 (地下ホール)
- ④ 分かち合い 14:00~14:15 (地下ホール)

参加者数:12 教会 22 名

席上献金:13,400 円

II. 開会礼拝

司式・説教 山岡 創 牧師(坂戸いずみ教会)

奏楽成田恵子(大宮教会/信徒)

招詞 ペトロの手紙(一)2 章 9 節

讃美歌 21-402、21-451

聖書 使徒言行録 3 章 1~10 節

説教題 「伝道の核心」

皆さんは何を持っているか?

心の中に「イエス・キリストの名」を持っているか?

との問いかけで始まった山岡先生の説教は、心の中にイエス・キリスト名を持っていることが、福音を伝える原動力であることを伝えてくれた。

さらに今、イエス・キリストの名を心に持っているとは確信できなくても、毎週の礼拝に 養われる中で、イエス・キリストの名が心に形作られてくる、との励ましを力強く語られた。

III. 発題

市川浩(飯能教会/信徒、壮年)『信徒伝道一サラリーマンとしての生活の中で一』

吉田奏(そう)(聖学院教会/信徒、青年)『青年伝道についての考察』

山岡創(坂戸いずみ教会/教師、伝道委員会)『私が考える伝道』

以上 3 人から各題での発題があった。

市川(報告者)は、職場伝道の経験を語り、礼拝に誘ったが定着者は 0 人であったので 信徒伝道

としては失敗であったと自分の伝道を総括した。

原因として、

① 「福音、イエス」を伝えるのではなく、「自分はキリスト教徒である」という事を伝えてしまったこと、

② 教会や牧師の指導下の組織的な伝道ではなかったこと、

とまとめ、教会全体での組織的な伝道方策を立てること、を提言した。

若手の吉田さんは、青年層の社会心理的な背景を、「個人主義」をキーワードにして説明してくれた。強い選好性、好みの合わない人とは時空を共有しない、興味の無いことに関して集団活動をするのを嫌う、しかし孤独は避けたい、.....等の心理を巧みな話術で、リアリティーをもって語って下さった。

教会はそのような青年たちに「居場所」を提供できる。

そのためには、多様性のある人々のゆるいつながりを大切に、こちら(教会側)から青年たちのもとへ出てゆく事(イベント開催とか)などの提言をしていただいた。

高齢者の多い会であったので、皆さん大変刺激を受けた様子であった。

山岡先生は、

① 救いの恵みを伝えることは「推し」(そういう言葉はお使いにならず、「好きなラーメン屋を紹介する」という語りであったが)である、

② 伝道は、人が人に、一人が一人に直接伝えるという人格的な関わりが基本である、

③ 格好をつけたり方に力を入れて大上段に構えるのではなく普段の生活の中で証しをする(こんな私「でもクリ」スチャンでよい)、

④ 集会等の時間・場所を教会の都合に合わせるのではなく参加者・信徒の都合に合わせて柔軟に企画する、

との提言をなされた。

IV. 分団・分かち合い

3分団に分かれて、和気あいあい、活発な討議があった。

分かち合いでは、各分団の報告と質疑応答を行った。

最後に佐藤潤先生(大宮教会)に閉会祈祷をしていただき、会を終了した。

小人数ではあったが、吉田奏さんの発題で大いに盛り上がり、中身の濃い集会となった。主の導き、皆様のお祈りに感謝します。

在 主

2025 年 11 月 24 日

